

発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL <http://nssk-tohoku.com/>

今現在、私は「朝の礼拝」「昼の祈り」「夕の礼拝」「就寝前の祈り」を、毎日献げる恵みと幸いと喜びを享受しています。祈禱書の「朝の礼拝」冒頭に次のような言葉が記されています。毎日聖書を朗読し、詩編を歌って神をほめたたえ、祈りをささげて日々の生活を神と人とのために清めることは、初代教会からの営みであった。わたしたちも「朝の礼拝」「夕の礼拝」によってこの営みに加わるのである。とあります。

毎日聖書を朗読するということとは、ただ沈黙で聖書を黙読するのは違って、様々なことに気づかせてくれます。例えば、誰に向かって朗読するのか？その方に声は届いているだろうか？そのためにもどのような朗読の仕方がふさわしいのだろうか？等々……。そしてそのような営みを通して

シリーズ「東北の信徒への手紙」
「祈り続ける教会」
司祭 パウロ 松本 正俊



て、だんだん聖パウロの言う「キリストを着る」(ガラテヤ3:27)とか「キリストがあなたを感じています。」

さらに、某修道・神父が「詩編を祈る」という本の冒頭で次のようなことを書いていらつしやいます。『詩編は実際、二千数百年以上もの昔から「神の民の祈り」として集められ、伝えられ、そして文字通りに一日もやむことなく歌われていた。』パレスチナの寒村や豪華なエルサレムの神殿の中で、さすらいのバビロニアの花の都で、さらにキリスト教の時代になってからは、ローマのカタコンブの地下聖堂や大都會のカテドラル、そして、最後に、喧騒に満ちた大東京の団地や、最果ての

レゴリオの家で学んだ言葉があります。それは「詩編は、すべてキリストの言葉であり、詩編から我々はキリストの声、キリストについての声、キリストへの声、教会の声、教会についての声を聞くことが出来る。』と。そう教えられて、心を込めて味わいながら詩編を唱える(実際には歌われないが、自然にリズムが整えられる。』と今まで持っていた、詩編理解から何か新たな目覚めを感じています。

言うまでもなく、私たちの信仰は、教会の信仰です。キリストの神秘的なからだである教会の私たちはその肢体である」という信仰です。この教会で毎日「公禱」として捧げられる神への賛美と感謝、祈り続けられている教会の姿は、初代教会からの尽きること・絶えることのない素晴らしい伝統・歴史です。

北海道の山奥の静かな修道院で―あらゆる種類の男女(神の民)となつたひとりひとりの心と口から、一日も絶えることなく歌われ続けてきた。』と。私は二千数百年前から一日もやむことなく絶えることなく歌われ続けてきたなんて、今さらながら、詩編の歴史はすごい！と思いました。この歴史の流れに身を任せる信仰を教会は主なる神からのご恩寵として受け取り実践してきたのです。

あなたがたの心の内に住む(エフェソ3:17)ということが体感できるような気がしてくるのです。

詩編を歌うということについて、私が通っている聖ゲ

まえて、教会共同体(神の民)のメンバーとして、私たちは自覚をもって教会生活を送りたいものだと思います。(小名浜聖テモテ教会嘱託司祭

まえて、教会共同体(神の民)のメンバーとして、私たちは自覚をもって教会生活を送りたいものだと思います。(小名浜聖テモテ教会嘱託司祭

まえて、教会共同体(神の民)のメンバーとして、私たちは自覚をもって教会生活を送りたいものだと思います。(小名浜聖テモテ教会嘱託司祭

広がれ！協働の輪 「しゃべり場」の開催

「会議のようにかしこまった形式ではなく自由に意見を述べて情報交換やアイデアを出し合って、東北教区の各執行機関や各部門の働きが活性化される。そしてそれぞれの働きがバラバラではなく、キリストの枝としてつながり、神の絶え間ない宣教の御業に一緒に参画していきたい」という思いが、オンラインによる意見交換会「しゃべり場」開催の背景にあります。また、コロナ禍でなかなか思うように活動が出来ない中にあっても、みなさんとコミュニケーションを取りたいという思いもありました。

第1回目を5月24日に、第2回目を7月28日に、どちらもオンラインで開催されました。参加対象者は、各執行機関、各部門の長の皆さんです。「しゃべり場」のテーマは「必ず「協働」です。初回は手探りでもあったせいかわ何となく緊張した雰囲気でしたが、2回目は少しずつ慣れてきたのか活発に発言をされて、いくつかアイデアなども出されました。アイデアに留まらず、実現に向けて動きだせばと願っています。オンラインではありますが、皆さんの顔をみながら声を聴くことによつて、私は大きな力を頂きました。「私たちは一人ではない。どんな時も主にあつて一つであり、神の家族であると実感しています。「しゃべり場」は、毎月第4水曜日の午後6時から8時まで開催することになりました。協働の輪が広がっていきますように。」



宣教主事
司祭 ステパノ 越山 哲也

今年1月「執行機関合同拡大会議（オンライン）」が行われ、「協働」をテーマにこれからの東北教区について建設的な意見交換がなされました。その後、各グループ、各部門が協働していくためのきっかけづくりとして「しゃべり場（オンライン）」が開催されることになり、私もハラスメント防止・対策委員会から参加することになりました。初回の5月24日（月）は参加者（12名）の自己紹介と各グループ・各部門の近況報告で、あつという間に2時間が過ぎてしまいました。

「しゃべり場」に参加
ハラスメント防止・対策委員
アンナ 赤坂 典子

ですが、オンライン会議は、自宅や各教会から遠方の方と顔を見て話すことができますし、移動時間や交通費も節約できるため頻繁に開催できる、というのが利点であると実感しています。いろいろな制限が多く窮屈に感じる毎日ですが、コロナ禍でも新しい道が与えられ共に働けることを感謝して、これからも「しゃべり場」に、気軽に参加し続けていきたいと思ひます。

「思いは同じ、心は一つ」

不動産活用グループ
フランスス 畠山 秀文

コロナ禍にあつて、教区執行機関拡大合同会議が行えない中、悩み模索した結果のWeb会議開催がしゃべり場の始まりと聞いていました。しゃべり場だから何を言っても許される？イヤイヤそんな事はない、無礼講ではないし……会議当日まで想いは巡ります。ワクワクとドキドキ、気持ちも交錯します。そしていざ当日、Webへアクセス。暫くぶりに皆さんの顔を見た途端、参加前の杞憂は何処に吹っ飛びました。東北教区というブドウの木に連なる信仰の仲間、日々沢山のことを考え実行し、未来へのアイデアも豊富に貯めこんでいました。今回のテーマの「協働」は、正直中々つかみ切れない。しかし過剰に「協働」を意識することなく、垣根を低くすることを日々心がけていければいいのかなと改めて思ひました。教区の「協働」は本来気さくに、似た者同士が手を繋ぎ、近所同士が力を合わせることで進んでいけるし、そう在るべきです。日々の教会生活だって同じです。聖職然り信徒然り、それぞれの役割を担って協働し自分たちの祈りの場を守り続け未来に向かう。その思いは東北教区も同じです。しゃべり場、Web上であつても画面の向こうには仲間がいて話をしてくれる、こっちの言うことを聞いてくれる。あー、なんて幸福な時間なのでしょう。皆心は一つ、それを実感した集いでした。



明星幼稚園
園長 セシリア 佐藤 滋子

桜とりんごで有名な青森県弘前市の中心街、土手町の裏通りにある明星幼稚園。幼稚園の歴史は古く、昭和6年に明星保育園として弘前昇天教会の隣に開設されたのが始めです。今は40名ほどの子どもたちと教職員11名でイエス様の教えのもと保育をしております。

明星幼稚園は街中にあることを忘れるくらい、小さな敷地に自然がいっぱい詰め込まれた幼稚園です。園庭を囲むフェンスには、クレマチス(モントナ)がピンクの十字架の形の花をたくさん咲かせ、園庭の隅には大きな柿の木が茂

り、夏でも涼しい一角となっています。この柿の木には毎年たくさんの実がなり、その実を使って干し柿を作るのが楽しみになっております。その手前に、昇天教会から株分けしていただいたピンクのバラでアーチを作りました。子どもたちはこのアーチをく



ぐっていくコーナーが大好きで、「柿森」と呼んで探検したり、虫を探したり、お花を摘みに出かけます。この小さな園庭に毎年アゲハ蝶が飛んできて卵を産んでくれるようになりました。今年もたくさんアオムシからすでに大きな

蝶になり園庭の周りを優雅に飛び回っています。

虫とのファーストコンタクトが羽化したばかりのアゲハ蝶だった一人の女の子がいました。その子は年長から幼稚園に通い始め、クラスにいることが難しい子でしたが、そのアゲハ蝶がひらひらと誘うように飛んでは、優しく彼女に寄り添って、頭や手にまるでリボンのように止まってくれたのです。その蝶は、女の子とたくさん遊んでくれたので、鱗粉が剥がれ落ち羽が透けてしまうほどになり、二度と飛ぶことはできませんでした。でも、その子は幼稚園に安心して通うことができるようになり、友だちとのかわりを持つきっかけにもなっていたのです。

毎日の生活の中でこんな奇跡のような出来事があると、神様は確かにここにいて私たちを守ってくださっていると強く感じ、さらに保育に励もうと思うのです。

明星幼稚園には、小さいけれど愛が詰まった園庭がいつも子どもたちを優しく見守ってくれています。

5月中旬、突然、教会へ行ってみたい、その思いがわきました。以前、何度か礼拝に参加した郡山の教会へ。早速電話にて「礼拝」の確認をしました。林司祭様のご在宅で、6月から礼拝再開と伺いました。再度訪問し、いろいろと楽しいお話をさせていただきました。最後に「洗礼」のお

る教会でした。さらに、ハンセン病に生涯を捧げられたコンウォール・リー女史が聖公会の宣教師だったという共通点にも、導きを感じました。吉田主教様からの按手。すべてが終了。こうして、新たにイエス様との再会、まさに神の愛の導きと賜そのものとして感謝するばかりです。

洗礼・堅信
「イエス様との再会」
郡山聖ペテロ聖パウロ教会
バルナバ 小林 弘幸

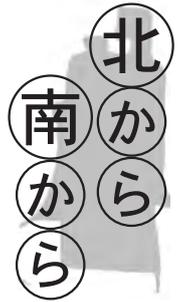


小林さん：中央

私は毎朝神棚と仏壇に手をあわせる母の背中を見て成長しました。その後、近所や身のまわりでの法事などをを見て、(人間の一生はなんて儂い……)と思いがらの毎日、閉じこもってばかりでした。そんなときにキリスト

話がありました。20年余り聖書とともにあり、私も決心。毎週火曜日に「教会問答」を基に準備がスタート。併せて日本聖公会についての学びの時となりました。6月27日に「洗礼堅信式」が決まりました。緊張と期待で当日となりました。実は「郡山聖ペテロ聖パウロ教会」は、通っていた幼稚園の遠足で訪れたことがあ

した。そんなときにキリスト教の幼稚園に通うことになりました。「神様とイエス様」の存在を知ることになりました。毎日園長先生からイエス様は皆と一緒にいて下さる、と聞くことで少しずつ心が開かれました。あの時の教会で以来、ますます主を信頼する信仰生活が与えられたことに心から感謝いたします。 在主



八戸聖ルカ教会

八戸聖ルカ教会のある八戸市のコロナウイルスの感染者数は、他の地域に比べるとそれほど多くありませんが、当教会の宣教の柱である日曜学校は昨年同様、夏の行事などを見送っている状態です。

現在、当教会では教会墓地の建設を進め、11月までに建設することを目標にしています。教会として、新たに神さまの宣教の業を現わすことを目指して、引き続き、努めてまいります。

西の平聖パウロミッション

西の平聖パウロミッションは、6月19日土曜日、八木正言司祭の礼拝で再開いたしました。

当伝道所は閉所の不安の中にありましたが、八木正言司祭の言葉に小さな光が見えた様な気がします。これからの伝道所についての話し合いの時間を作ってくださり信徒の

気持ち聞いてくださるとのことです。私たちも一日でも長くこの場所で祈れる様願っています。主に感謝します。

鶴岡聖公会

主のみ名を賛美いたします。昨今いまわしいコロナ禍が地球上を渦巻いています。鶴岡聖公会では、現在月1回吉田主教夫妻が仙台よりお越し下さり、少ない人数で礼拝を守っております。

私も高齢になりました、家族に見守られ、心静かに主に寄り添い、感謝とお守りの内に一日一日大切に過ごしています。主のみ名によってアーメン

若松諸聖徒教会

コロナ禍で思うように進まなかった聖堂建築の話し合いについて、先日漸く、幼稚園の先生方との協議の場を持つことができました。

聖堂建築についてのこれまでの経緯や今後の進め方だけではなく、幼稚園の行事に教会としてどのように連携し、協力できるのかなど、改めてこれからの教会と幼稚園の関係を見つめ直す機会が与えら

れましたこと、神様のお導きと感謝したいと思います。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

これからのプロジェクトのあり方を探求しています。メンバーたちの意見交換から地域支援の継続と、いくつかの新たな取り組みべき内容が導き出されました。

福島第一原子力発電所事故の後遺症は、最も重大な関心事です。放射能汚染による自然環境と人体への悪影響は、避けて通れない深刻な大問題です。その汚染と人々の生活

に関わる事態を見える化する事が肝要です。トリチウム汚染水海洋放出や六ヶ所村再処理工場稼働等について学び、把握し、伝達し、解決の道を求めていこうと結論しました。何よりも、子どもたちの未来のために問題を先送りしてはいけません。私は今まで知らなかったのですが、震災時、福島にいた子どもたちは20歳になるまでは2年ごと、それ以降は5年ごとに甲状腺検査を任意ですが受けているそうです。発症するかもという不安を想像するとき、何かしなければとの強い思いに駆られます。

(司祭 長谷川 清純)

常置委員会報告

(第11回・7月13日)

■主教報告

動静報告及び今後の予定について。室根聖ナタナエル教会を宗教法人日本聖公会東北教区に合併することを同教会堅信受領者総会で承認された件について報告。

■協議事項

(1) 教区宣教130周年記念行事について

記念礼拝について、宣教主事、会場教会牧師、主教で準備を進め、礼拝後の研修については宣教協働区協働委員を含む常置委員が準備を担うことを確認。

(2) 宣教協働区についての共通理解と主教選挙に関する今後の進め方について

前回常置委員会での決議について、さらに具体的な内容を検討。

(3) 教区業務組織及び業務分掌規程改正とそれに伴う執行機関の働きについて

前教区会期からの課題である表記の見直しについて、今後の予定を確認。あわせて現機構にあった執行機関各グループの在り方(活動計画と予算策定)について協議。

永遠の平安

アグネス 立本 ひとみ
(6月15日・青森)

9月逝去者記念聖餐式

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、10月5日(火)にあわせて行う予定です。

宣教師 Miss Ellen McRae 1921年9月6日逝去

執事 森 録次郎 1934年9月10日逝去

司祭 結城 光雄 1973年9月10日逝去

司祭 James Chappell 1954年9月16日逝去

主教 コルネリオ 田崎 安男 2009年9月22日逝去

伝道師 ルツ 高橋 菊代 1954年9月23日逝去

司祭 志賀 清光 1935年9月25日逝去

司祭 ルカ 釜范 東祐 2002年9月27日逝去